

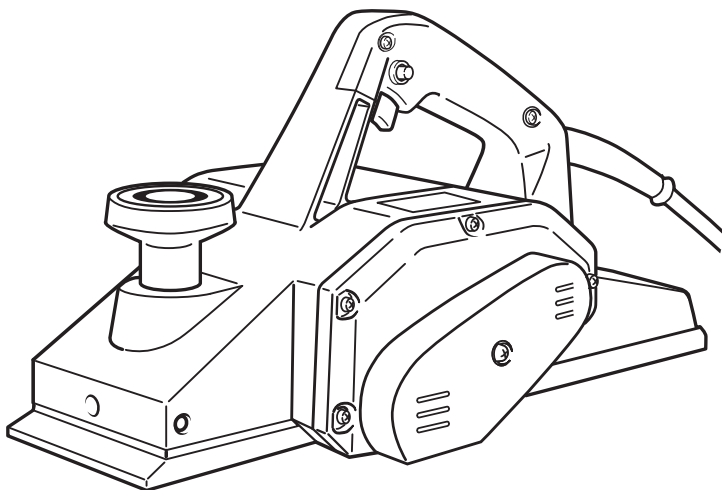
HiKOKI

かな

P 35 (SC) [替刃式]

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
かんなの使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕様	8
標準付属品	8
別売部品	9
用途	9
作業前の準備	10
ご使用前に	11
削り方	12
替刃式かんな刃の取付け・取りはずし・刃高調整	15
別売部品のかんな刃の取付け・取りはずし・刃高調整	19
別売部品のかんな刃のとき出しについて	22
保守・点検	23
ご修理のときは	裏表紙

△警告、**△注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**△警告**」、「**△注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

△警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

△注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

なお、「**△注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。

警告

- 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ 保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。**
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源から抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。**
常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしであることを確認してください。

警告

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。

屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

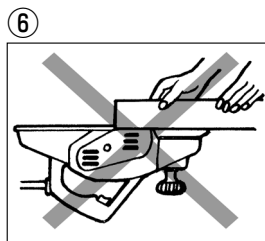
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

かんなの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、かんなとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

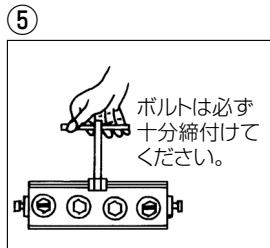
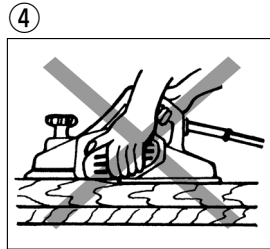
⚠警告

- ① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② **必ずアース（接地）してください。**
故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
（詳細は 10 ページの「1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項をご参照ください。）
- ③ **使用中は、機体を確実に保持してください。**
確実に保持していないと、けがの原因になります
- ④ **切削する材料は、安定性の良い台に置いて作業してください。**
台が不安定ですと、けがの原因になります。
- ⑤ **材料を手にとっての切削はしないでください。**
かんな刃に触れ、けがの原因になります。
- ⑥ **機体を万力などで保持して、かんな刃を上向き（定置形）にした使い方はしないでください。**
かんな刃に手や身体が触れ、思わぬけがの原因になります。
- ⑦ **使用中は、切粉排出口に指などをいれないでください。**
回転しているかんな刃に触れ、けがの原因になります。
- ⑧ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑨ **誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。**
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑩ **継ぎ（延長）コードを使用するときは、アース線を備えた 3 心キャブタイヤケーブルを使用してください。**
アース線のない 2 心コードですと、感電の原因になります。



⚠️注意

- ① かな刃や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② かな刃の取扱いには、手袋、布などで手を保護し、十分注意してください。
不用意に扱うと、切り傷の原因になります。
- ③ 使用中は、機体の底面に手など身体を近づけないでください。
かな刃に触れ、けがの原因になります。
- ④ ベルトカバーの底面は、ベルトがおおわれていないので、使用中、手などを近づけないでください。
ベルトに手が触れ、けがの原因になります
- ⑤ かな刃の交換や刃高調整後は、かな刃取付ボルトを十分に締付けてください。
ボルトがゆるむと、思わぬけがの原因になります。
- ⑥ スイッチを切った後も、惰性で回転しているかな刃に注意してください。
手などが触れると、けがの原因になります。
- ⑦ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください
けがの原因になります。
- ⑧ さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
不意に動き、思わぬけがの原因になります。



各部の名称

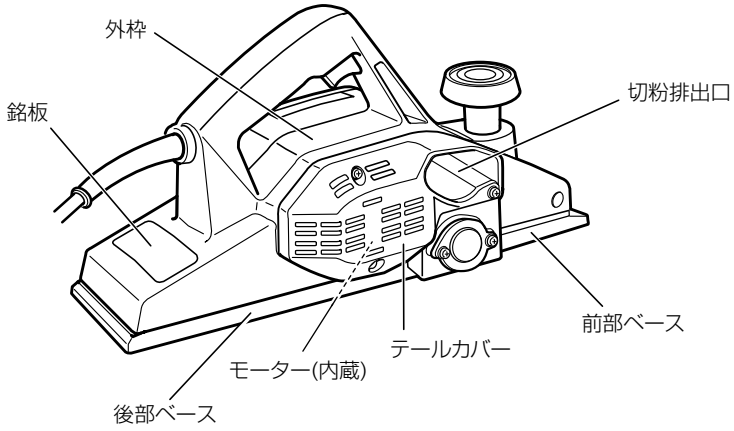


図 1

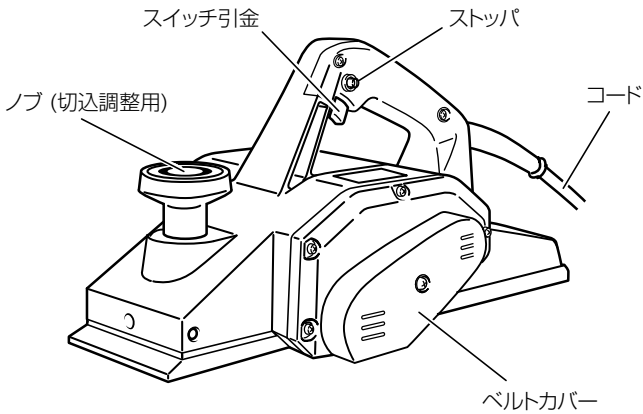
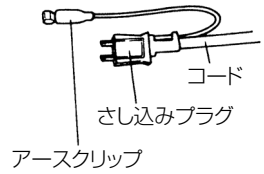
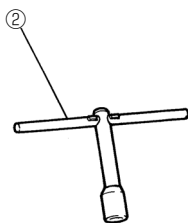


図 2

仕 様

使 用 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
刃 幅	120 mm
最大切込み深さ	2 mm
質 量	4.2 kg (コードを除く)
全 負 荷 電 流	11 A
無 負 荷 回 転 数	16,000 min ⁻¹ {回/分}
消 費 電 力	1,050 W
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター
コ ー ド	アースクリップ付 3 心キャブタイヤケーブル 5 m

標準付属品



- ① 替刃式かんな刃 (本体装着)……………2 個
- ② ボックススパナ (かんな刃締付用)……………1 個

図 3

別売部品

① 案内定規
(止めねじ付)

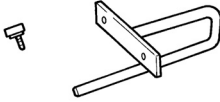


図 4-1

② かなな刃 (高速度鋼チップ付) ③ 刃高調整定規

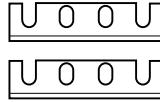


図 4-2



図 4-3

④ 刃とぎ保持具

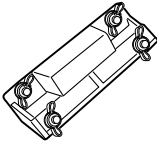


図 4-4

⑤ ドライバー
(マイナス)



図 4-5

⑥ 替刃式かなな刃

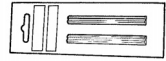


図 4-6

用 途

各種木材のかなな削り

〈平削り〉

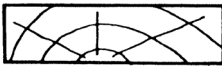


図 5-1

〈面取り〉

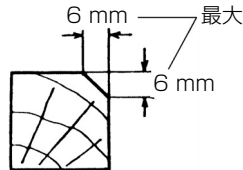


図 5-2

〈相じゃくり〉

(案内定規を使用)

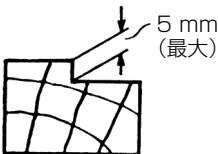
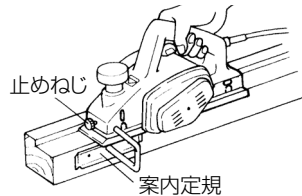


図 5-3



相じゃくり時の案内定規の取付図

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1. アース（接地）、漏電しゃ断器の確認………

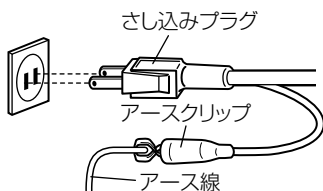
ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

また、本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15 mA 以下、動作時間 0.1 秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためにアースされるようおすすめします。

アースをするときは、下記図のアースクリップをお使いになると便利です。

アースクリップ、アース線は、念のために異常のないことを確認してからご使用ください。テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、アースクリップと本機金属外枠との間の導通を確認してください。

地中に接地極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。なお、アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがありますので、絶対にしないでください。



2. 継ぎ（延長）コード………

⚠ 警告

• 継ぎ（延長）コードは、損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎコードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

次の表は、使用できるコードの太さ（導体公称面積）とその最大長さを示します。

導体公称断面積	最大の長さ
1.25 mm ²	10 m
2 mm ²	15 m
3.5 mm ²	30 m

必ずアース（接地）できる接地用の 1 心をもつ 3 心キャブタイヤケーブルをお使いください。

3. 作業台（木製）を用意する……………

かなな作業に合った、しっかりした作業台をご用意ください。作業台がぐらぐらしていると危険です。作業台は安定した状態に設置してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～3項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる……………

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。また、直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる……………

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと、不意に起動し、思わぬ事故の原因になります。スイッチはスイッチ引金（図2参照）を引くと入り、はなすと切れます。スイッチ引金を引き、はなしたとき引金に戻ることを必ず確認してください。

3. かなな刃の締付けを確かめる……………

工場で組立ての際は、すぐご使用できるように、かなな刃取付けのボルトは十分に締付けてありますが、念のため付属のボックススパナでもう一度締付けてください。

4. 電源コンセントの確認……………

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。

お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと過熱して事故の原因になります。

削り方

⚠警告

- 回転中のかんな刃には手や身体を近づけないでください。
- 使用中にかんな胴が止まったり、異音を発したときなどには、直ちにスイッチを切ってください。
- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

⚠注意

- 運搬は必ずかんな胴が止まってからにしてください。スイッチを切っても惰性で回っているかんな刃に衣類などが巻き込まれたりして、けがの原因になります。また運搬時には、スイッチ引金から指をはなしてください。不用意にスイッチが入り、思わぬ事故の原因になります。
- 回転するかんな刃にコードを接近させないように十分ご注意ください。

- 注**
- 切削中急激に変化させるような作業はさけてください。替刃式かんな刃やセットプレートの損傷をまねく恐れがあります。
 - 被削材に釘や異物（ワニス、ペンキ、小石、土ぼこり、砂など）が付着していないことを確認してください。釘や異物は、かんな刃の損傷や異常摩耗をまねく恐れがあります。

1. 切込み深さの調節……………

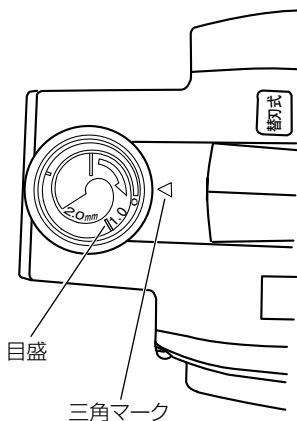


図 6

- (1) ノブを目盛りの矢印の方向（時計の針の回転方向）に回し、目盛りを三角マークに合わせます。目盛りの単位は mm です。（図 6）
- (2) 切込み深さは 0 ～ 2 mm まで調整できます。

2. 仕上面は……………

荒削りでは切込みを深くして能率的に削りますが、削りくずがつまらないで、きれいにとび出すように送りの速度を加減してください。仕上げ削りのときは切込みを浅くし、送りを遅くするときれいな面が得られます。

3. スイッチの操作……………

スイッチは、指で引金を引くと入り、はなすと引金に戻りスイッチが切れます。引金を引いてからストッパを押しますと、引金から指をはなしても入ったままになり、連続運転に便利です。切るときは再び引金を引くと、ストッパがはずれ、引金から指をはなすとスイッチが切れます。

4. 削り始めと削り終りに……………



警告

- 作業台や板の上に置いた状態でスイッチを入れると、けがの原因になります。

まず、かな胴を木材の端からはなし、前部ベースを木材の上へのせ、かなを平らに支えます。スイッチを入れ、そのまま静かに前へ進めます。

削り始めには前の方に力を入れ、削り終りには後の方に力を入れていつもかなを平らに動かしてください。(図7、図8)

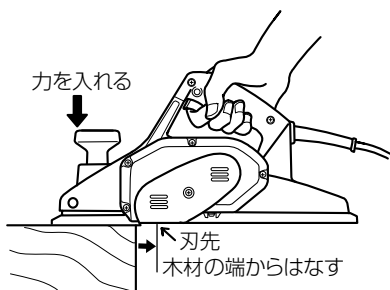


図 7 (削り始め)

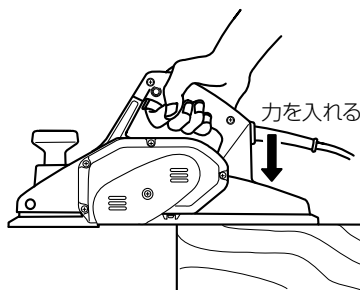


図 8 (削り終り)

5. 相じゃくり切削について (段差をつける削り方)……………

<相じゃくり>
(案内定規を使用)

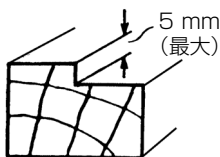


図 9

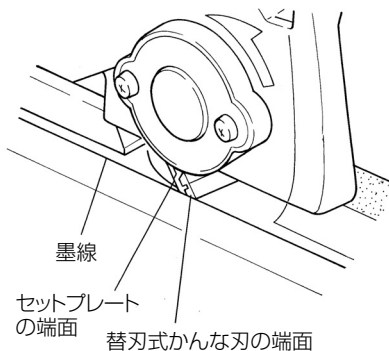


図 10

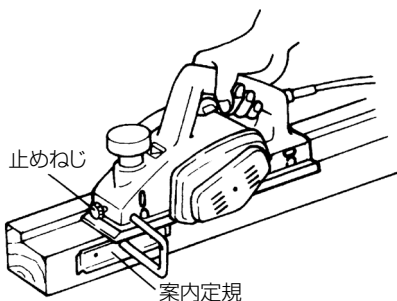


図 11

注 •案内定規は、木材の側面に確実に当て切削してください。
すき間のある状態で切削しますと削り幅がバラツキます。
相じゃくり深さは最大で5 mmです。

図9のような段差をつける切削時は、別売部品として用意してある案内定規をご使用ください。

(1) 替刃式かな刃の端面を墨線に合わせる

木材の削りたい幅の位置に墨線を書き、替刃式かな刃の端面を墨線に合わせます。(図10)

注 •セットプレートの端面から替刃式かな刃の端面が少し出ていることを確認してください。

(2) 案内定規を取付ける

案内定規を本体前部の取付け穴よりさし込み、木材の側面に突き当てて、その位置で本体の止めねじをしっかりと締付けて固定してください。(図11)

6. 削り終わった後のかんの持ち方……………

削り終って、機体を片手でぶら下げるときなどは、危険防止のため、かんの刃部(ベース面)が自分の体の方に向かないように保持してください。

替刃式かな刃の取付け・取りはずし・刃高調整

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

⚠ 注意

- 刃物で指などを切らないよう十分注意し作業してください。
- かな刃取付ボルトを十分に締付けてください。

- 注** • かな刃、ブレードホルダの交換時は、必ずそれぞれ「一對」で交換してください。
バラバラで交換するとバランスが悪くなり、振動が出て、機体の寿命を低下させます。

1. 替刃式かな刃の取りはずし方……………

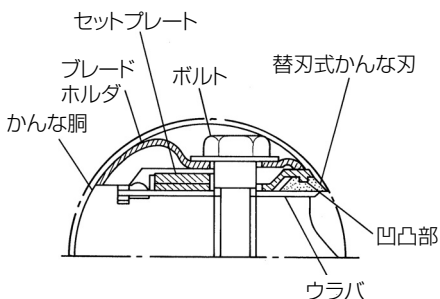


図 12

- 替刃式かな刃固定部の構造を図 12 に示します。
- 刃高は、工場出荷時に調整されておりますので下記手順による交換後も、刃高調整の必要はありません。

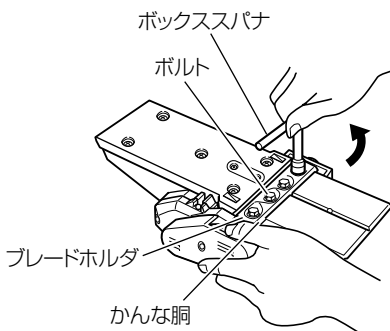


図 13

(1) ボルトをゆるめる

ブレードホルダを固定しているボルト(4本)を付属品のボックススパナで軽くゆるめます。(図 13)

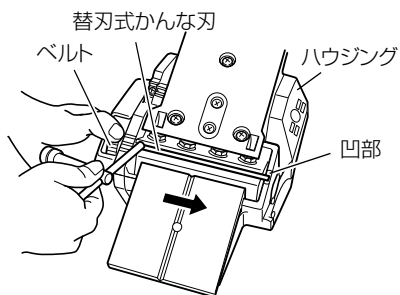


図 14

(2) 替刃式かんな刃を取りはずす

替刃式かんな刃をハウジングの凹部に合わせ、ベルト側よりボックススパナの柄などで押して取りはずします。(図 14)

2. 替刃式かんな刃の取付け方……………

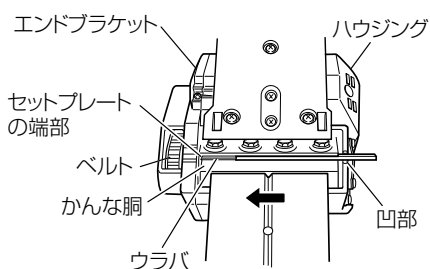


図 15

(1) 削りくずをふきとる

替刃式かんな刃やかんな胴に付いている削りくずをきれいにふきとります。(図 15)

(2) 替刃式かんな刃を取付ける

セットプレートの端部をハウジングの凹部に一致させ、その位置でベルトの反対側より、セットプレートの凹部に合わせて替刃式かんな刃を挿入します。(図 15)

注 •切粉排出側のセットプレート端から替刃式かんな刃の端面が少し出ていることを確認してください。

(3) ボルトを固定する

ボックススパナでボルト(4本)を十分に締付けます。(図 16)

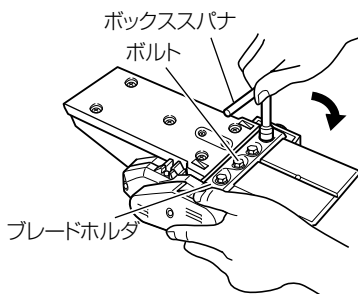


図 16

3. 替刃式かんな刃の刃高調整……………

注 •替刃式かんな刃は、工場出荷時に刃高調整されており、調整の必要はありませんが、万一、刃先がベースの面より極端に出すぎていたり、引込んでいる場合は、次ページ以降に示す手順で調整してください。

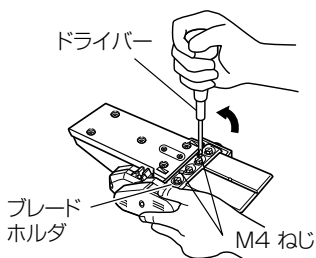


図 17

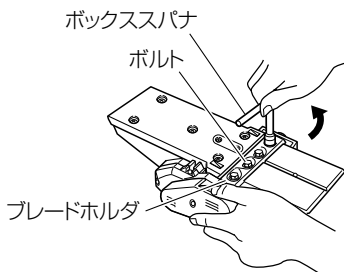


図 18

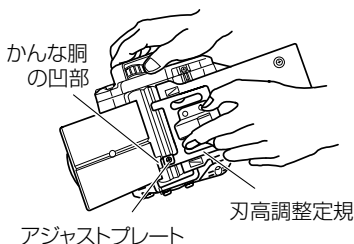


図 19

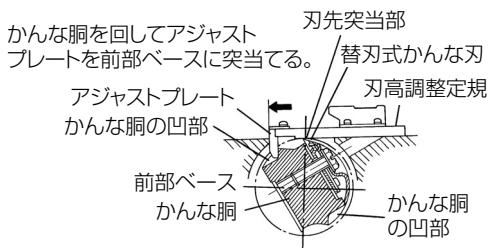


図 20

(1) M4 ネジ (2 コ) をゆるめる

ブレードホルダの穴に、ドライバーをさし込み、M4 ねじ (2 コ) を約 1 回転ゆるめます。(図 17)

(2) ボルトをゆるめる

ブレードホルダを固定しているボルト (4 本) を付属品のボックススパナでブレードホルダの座面からはなれる程度にゆるめます。(図 18)

注 • 切粉排出側のセットプレート端面から替刃式かな胴の端面が少し出ていることを確認してください。

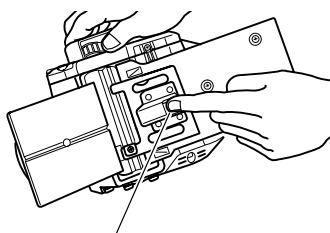
(3) 刃高調整を行う

替刃式かな胴を入れた後、図 19 のように別売部品の刃高調整定規を持ち、その刃先突当部で刃先を押しながら、定規先端部のアジャストプレートをかんな胴の凹部に入れます。(図 19)

次にかな胴を前部ベース側に回し、アジャストプレートの前部ベースに突当てます。(図 20)

注 • 刃高調整定規の磁石に小さい釘などがついてしまうと刃高の精度が悪くなることがあります。釘などがついていないことを確かめてからご使用ください。

- 刃高調整定規をベース面にのせたとき、替刃式かな胴の凹部がセットプレートの凸部に挿入された状態で、替刃式かな胴とセットプレートが同時に上下することを確認してください。



プレート (B)を押す

図 21

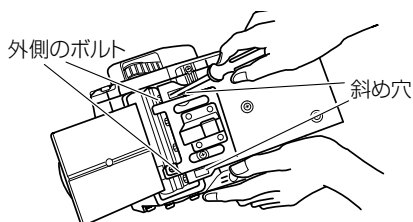
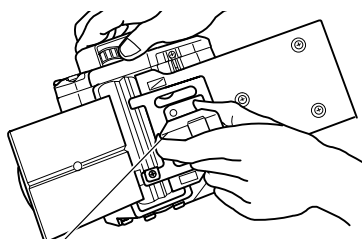


図 22



定規をはずすときは
前部を持ち上げる

図 23

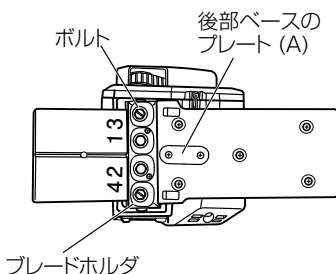


図 24

図 21 のように刃高調整定規のプレート (B) を指で「ポン」と押すと、刃高調整定規は後部ベースのプレート (A) (図 24 参照) に強く吸い着きます。

次にこの状態のまま、別売部品のドライバーで後部ベースの斜め穴より、外側のボルト 2 本を仮締めします。(図 22)

これで刃高調整ができたことになります。

図 23 のように、刃高調整定規の後部を支点にして、前部を持ち上げ、定規を後部ベースからはずします。

(4) ボルトを固定する

ボックススパナで 4 本のボルトを 図 24 の順序で、2 ~ 3 回くり返して十分に締付けます。

(5) M4 ねじを締付ける

ブレードホルダの穴にドライバーをさし込み、M4 ねじ (2 コ) を十分に締付けます。〔 図 17 (矢印は逆向き) 〕

(6) 反対側の替刃式かな刃を取付ける

かな刃を反転し、反対側も同じように取付けます。

注 ・ボックススパナの柄に、パイプなどをさし込んで柄を長くして締めますと、ねじ山を傷めたりしますから避けてください。

別売部品のかんな刃の取付け・取りはずし・刃高調整

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

⚠ 注意

- 刃物で指などを切らないよう十分注意し作業してください。
- かな刃取付ボルトを十分に締付けてください。

1. かな刃の取付けと刃高調整……………(かな刃は別売部品)

注 • かな刃、ブレードホルダの交換時は、必ずそれぞれ「一對」で交換してください。

バラバラで交換するとバランスが悪くなり、振動が出て、機体の寿命を低下させます。

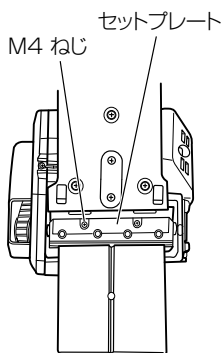


図 25

- (1) ブレードホルダ、替刃式かな刃を取りはずす

15 ページの「1. 替刃式かな刃の取りはずし方」の項を参照して取りはずします。

- (2) セットプレートを取りはずす

M4 ねじ (2 本) をゆるめてセットプレート、M4 ねじ (2 本) をはずします。(図 25)

- (3) ブレードホルダを取付ける

かな胴の上にブレードホルダの穴位置を合わせ、ボルト (2 本) でブレードホルダを軽く締付けてください。

このとき、ボルトは頭部にマイナス溝付のボルトを使用し、外側に 2 本だけ取付けてください。(図 26)

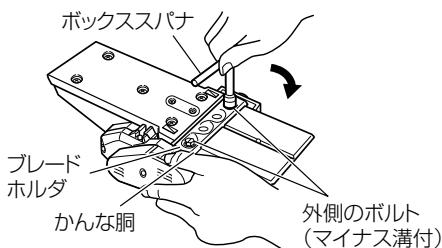


図 26

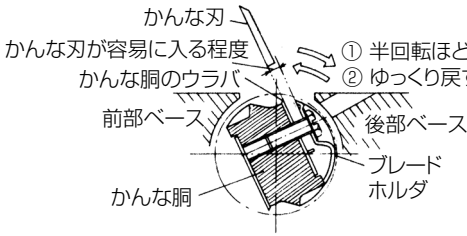


図 27

(4) かなな刃を取付ける

ベルトでかなな胴を図 27 の矢印①の方向に半回転ほど回し、次に矢印②の方向にゆっくり回して、かなな胴のウラバとブレードホルダとの間にすき間をあけます。

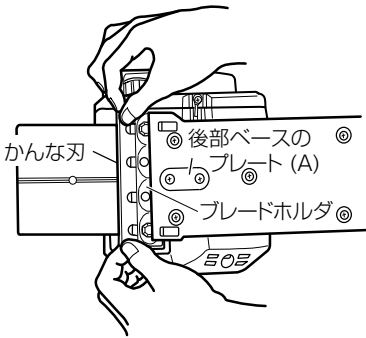


図 28

かなな刃の両端を持って、ウラバとブレードホルダの間に入れます。
(図 28)

注 •ウラバとブレードホルダとのすき間はかなな刃が容易に入る程度とし、あけ過ぎた時はボルトで調整してください。

(5) 刃高調整を行う

17 ページの替刃式かなな刃の「(3) 刃高調整を行う」の項を参照して調整します。

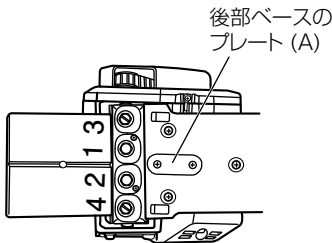


図 29

(6) ボルトを固定する

抜き取っておいた内側のボルト 2 本をネジ込み、ボックススパナで 4 本のボルトを図 29 の順序で、2 ~ 3 回繰り返して十分に締付けます。

(7) 反対側のかなな刃を取付ける

かなな胴を反転し、反対側も同様に取付けます。

注 •ボックススパナの柄に、パイプなどをさし込んで柄を長くして締めますと、ねじ山を傷めたりしますから避けてください。

2. かな刃の取りはずし方…………

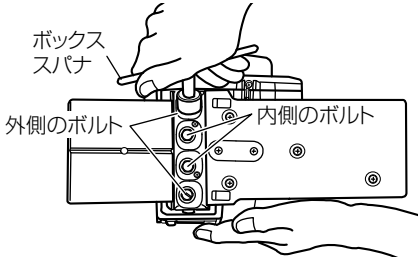


図 30

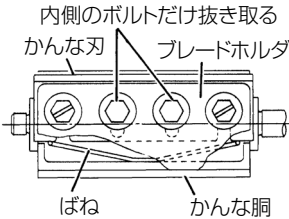


図 31

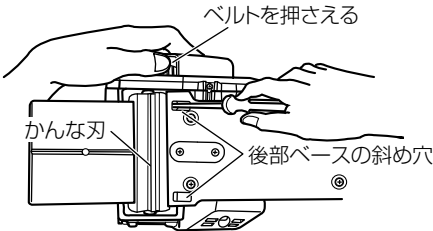
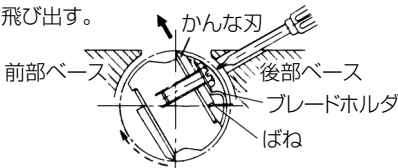


図 32

外側のボルトをゆるめると
かな刃がばねで
飛び出す。



ボルトをゆるめすぎて、かな刃がベース内
に出たときは、必ず矢印(点線)方向に回して
ください。

図 33

- (1) 付属のボックススパナで外側のボルト(2本)をゆるめ、つぎに、そのまま軽く締め直します。(図 30)
- (2) 内側のボルト(2本)をボックススパナでゆるめて抜き取ります。(図 30、31)
- (3) 後部ベースの斜め穴から、別売品のドライバーをさし込み、外側のボルトをゆるめると、かな刃はばね(図 31)に押されて数ミリ飛び出します。(図 32)
- (4) かな刃の両端を持って、取りはずします。

注・外側のボルトはなるべく抜き取らないようにしてください。
 ・かな刃が中のばねで前部ベースの内側に飛び出したら、(図 33)、かな胴を必ず図 33 の点線の矢印方向に回し、かな刃が外部に出た所で、刃を取り出してください。
矢印と反対に回しますと、刃がベースにくいこみ、各部を損傷させます。

別売部品のかんな刃のとき出しについて

刃ときには、別売部品の刃とき保持具を使用すると便利です。

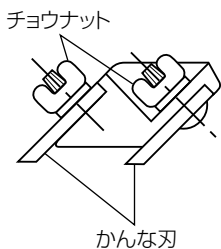


図 34

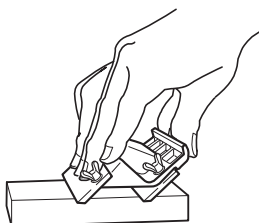


図 35

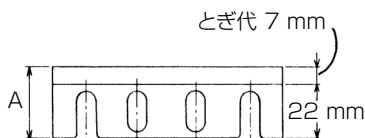


図 36

1. 刃とき保持具の使いかた……………

図のようにかんな刃を取付けて 2 枚同時に同じ刃先角度でとぐことができます。

この場合 2 枚のかんな刃の刃先面が同時にトイシに当たるようかんな刃を適当に出し入れして、調整してください。

(図 34、図 35 参照)

2. 刃とき時期……………

木材の種類、切込み深さなどにより異なりますが、普通は 500 m 前後削りましたら、とき直してください。

3. かんな刃のとき代……………

7 mm あります。即ちかんな刃のたけが 22 mm になるまでとき直しをして使用できます。(図 36)

4. トイシ……………

お手持ちの水トイシをご使用の場合は水に十分浸してからご使用ください。またトイシは使用しますとへこみが出てきますので、ときどき面を平らに修正してご使用ください。

保守・点検

警告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

1. かな刃の点検……………

かな刃の切れ味が悪くなったものを、そのままご使用になっておきますと、モーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますので早めに反対側を使用するか、新品と交換してください。

2. カーボンブラシの点検……………

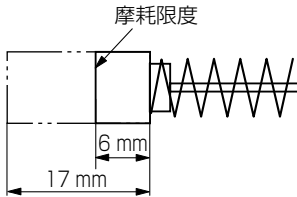


図 37

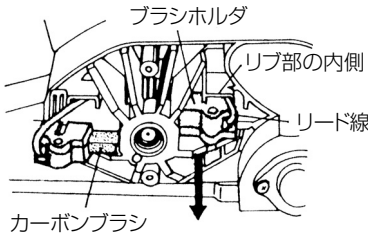


図 38

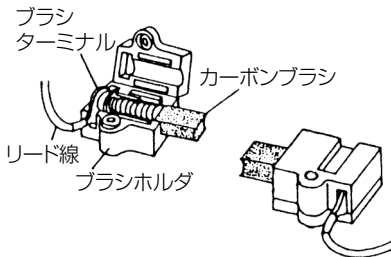


図 39

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度（6 mm ぐらい）になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

注 ●新品と交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。

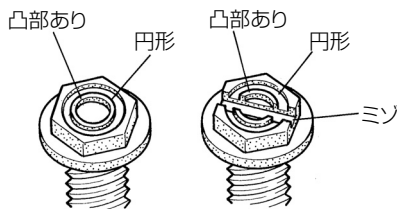
交換方法

- (1) テールカバーをはずしてから、ブラシホルダを矢印方向に引き抜けば、中のブラシターミナルと一緒にカーボンブラシが取り出せます。（図 38、39）
- (2) 取付けは、まず図 39 のようにカーボンブラシとブラシターミナルをブラシホルダに入れます。次に図 38 のように、リード線をリブ部の内側に入れて、(1) の逆に行います。

3. 機体の点検……………

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

注 • かな刃を固定しているボルトを紛失したり、損傷した場合は、必ずボルト頭の円形の中に凸部のあるボルトをお求めになり、交換してください。なお、本体購入時に装着されているボルトの頭には、円形の凹部があるだけで凸部がなく、形状が異なりますが全く支障はありません。



(1) ボルト (ミジなし) (2) ボルト (ミジ付き)
交換用ボルト頭の形状

4. モーターの取扱いについて……………

モーター (内蔵) (7 ページの「各部の名称」を参照) に、油および水をつけよう十分に注意してください。

注 • モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。使用後は、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をテールカバーの風穴から吹き込んでください。ごみやほこりの排出に効果があります。

5. かな胴のまわりをきれいに掃除してください……………

特に湿った木材を削ったあとは、切粉排出口やかな胴の裏刃の部分などに付着した削りくずをきれいに取り除いてください。

6. 前部のベースなどの取扱いについて……………

注 • 前部ベース、後部ベースおよび切込み深さ調整ノブの取付部は、特に高い精度を必要とする所ですので、入念に加工してあります。乱暴な取扱いをして、この部分をぶつけたりしますと、精度がくるい、切削作業に支障をきたすことがありますから、取扱いには十分ご注意ください。

7. 機体や付属品の保管……………

下記のような場所は避け、温度が 50℃ 未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
- 軒先など雨がかったり、湿気のある場所
- 温度が急変する場所
- 直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

メ 毛

メ 毛

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル



0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>